

## 2019年1月25日付 日刊産業新聞

働き方改革セミナーと新年互礼会

広島県鉄構工業会

【広島】広島県鉄構

工業会（理事長＝山本泰徳・スミアントス社長）は21日、広島市内のホテルニューヒロデンで働き方改革関連法についてのセミナーと新年互礼会を開催、約50人が参加した。

特定社会保険労務士の青木秀行氏を招き、働き方改革のポイントについてセミナーを開催した。残業時間の上限規制や年次有給休暇の取得義務化、同一賃金同一労働の考え方などの説明を行った。働き方改革が進まないケースなどを想定し、対策法を例示。チェック



山本理事長

リストを活用し、働き方改革の具体的な準備状況を確認した。参加したファブリーターの経営者らは、熱心に聞き入っていた。

続いて開かれた新年互礼会で山本理事長は「ファブは足元の事業環境が良い。技術革新があった訳ではなく、単純に需要が多いからだ。鉄骨業界は永遠と言われているが、危機感を覚えている。存続や繁栄のためには、今のうちに人手不足などの課題に取り組まなければならぬ。週休2日制を導入し、若い人を呼び込む必要がある。次世代につなぐため、10年、20年後のイメージを持ってまい進してほしい。そして、大きな花を咲かせよう」とあいさつした。

事務局から工業会に新しく加入した2社、正伸（福山市、萩原正展社長）とケイコウ産業（尾道市、峯松孝社長）が紹介された。